

「貝塚市スマートシティ基本構想（案）」に対するパブリックコメント結果

募集期間：令和4年7月1日（金曜日）から7月20日（水曜日）

募集方法：郵送、ファックス、Eメール、持参

提出人数及び意見数：5名、26件

提出されたご意見及びそれに対する市の考え方については下記の通りです。

番号	項目	提出されたご意見	市の考え方	対応結果
1	目的	目的に少子化対策を含めることを希望します。	目的の文章内において「社会環境の変化や進化」と記載しており、少子化の意味合いも包含しております。	原案どおり
2		「未来技術」の定義がわかりません。 今回提示されているイメージはすべて既存の技術で実現可能です。DXの活用など本当の意味での「未来技術」による先進的な取組が必要ではないでしょうか。 DXには3つの段階がありますが、1.段階止まりに感じます。 1. デジタイゼーション 「単なるデジタル化」 2. デジタライゼーション 「デジタル技術を活用しながらビジネスプロセス自体を変革する」 3. DX（デジタルトランスフォーメーション）	「未来技術」は近年急速に発展しているICTやIoTなどに関する技術を指しており、既存の技術と今後の技術の両方を含んだ技術と定義しています。 ご指摘のとおり、今後の技術による先進的な取組は必要と考えております。今回の提示では「市民の方々へ早期に価値を提供し次のステップに繋げる」ことを重視し、デジタル化の初期の段階に留まるものも取り入れております。	原案どおり
3	介護予防 健康データを活用した健康増進メニュー	バイタルデータ（電子カルテ等も含む）の連携は急務である。 現状、かかりつけ医と大病院のバイタルデータの連携ができておらず、重複する検査実施などの無駄（時間、金）を実感している。 バイタルデータは取得するだけではダメで、異常値を発見し本人に知らせる必要がある。 異常の発見はAI（未来技術）による検知と、専門家による判断が必要であると考えます。	ご指摘のとおり、個人の医療データをはじめ、介護、検診等のデータを連携するシステムの構築は必要と考えております。 その足掛かりのモデルとなる取組みとして、健康データを活用した健康増進メニューを実施していきたいと考えております。	原案どおり
4	介護予防 介護認定審査会のデジタル化	提示されているイメージは、前述の1. デジタイゼーション 「単なるデジタル化」にすぎません。	本市の現状を踏まえ、段階的な取り組みとしてデジタル化の初期の段階に留まるものも取り入れております。	原案どおり
5		必ず人的介入が必要な案件だと思いますが、可能な限り自動化して（一部の審査・判定もAI化など）、本当に人が行うべき「審査・判定」に集中いただきたいです。	ご指摘のとおりと考えており、審査・判定業務へのAI等の活用につきましては、今後研究してまいります。	原案どおり

6	公共交通 面的な公共交通ネットワークの構築	提示されているイメージでは、単に駅間をシャトルバスで結んでいるだけです。	施策イメージは駅間をシャトルバスで接続することに加え、待合所や車両内での市内特産品のキャッシュレス販売や、買い物配送支援など、デジタルを活用したサービスの提供を検討しております。	原案どおり
7		住民は、公共施設（役場・図書館など）やスーパー・大型商業施設への接続を希望するはずです。お年寄りが自転車にのり、炎天下スーパーに向かう姿をよく見かけますが、危険ですが他に方法がなく、誰も止められる状況にありません。	高齢の方や障害がある方をはじめ市民の皆様が、自動車を持っていなくてもスムーズに外出できるよう市内の公共交通ネットワークを充実させるため、そのビジョンを示す地域公共交通計画の策定を今年度から行っており、こちらの計画で検討してまいります。	原案どおり
8	公共交通 山手エリアや二色の浜公園、せんごくの杜への移動手段の充実	公共交通機関→ライドシェアで便利になるのであれば結構かとおもいますが、自動運転の周回モビリティなど「未来技術」を取り入れてることが出来るのではないのでしょうか。今更サイクルポートの設置を「未来技術」ととらえられているとすれば残念です。せめて、電動スクーター・キックボード、セグウェイタイプの物など提案いただきたいものです。	早期実現を重視しシェアサイクルを取り入れました。自動運転の周回モビリティの導入についても実装の可能性が高まれば検討してまいります。	原案どおり
9		<p>浜手地区の住民が高齢化していることとともに、これまで自家用車や自転車に頼っていた交通手段が不可能になった。浜手地区については、公共交通機関はないに等しい状況です。</p> <p>この構想の目的の論点②に「人口減少や高齢化などにより将来的に懸念される各種の地域課題の…」とありますが、将来的どころかもう何年も前から、懸念というより実際に既に起こっている問題であるということをもっと自覚するべきです。</p> <p>p5及びp6の施策概要イメージを見たとき、「浜手地区」「二色地区」はこの構想からすっぽりと抜け落ちていることを確信しました。山手エリアがこれだけ事細かにイメージされているのに、浜手エリアという項目さえありません。買い物にも大変な不便を感じている浜手地区の住民については、全く視野に入っていないというのが正直な感想です。</p> <p>コミュニティバスの増便、シャトルバスや相乗りタクシーなど新規事業の創設。何でもいいです。浜手地区から外に出ていく場合も、外から浜手地区にくる場合も、もっとスムーズに移動できるサービスを早急に整備してくれることを切望します。</p>	<p>ご指摘のとおり、「浜手地区」「二色地区」を含む全市域の公共交通については、大きな課題となっています。</p> <p>高齢の方や障害がある方をはじめ市民の皆様が、自動車を持っていなくてもスムーズに外出できるよう市内の公共交通ネットワークを充実させるため、そのビジョンを示す地域公共交通計画の策定を今年度から行っており、こちらの計画で検討してまいります。</p> <p>山手地域については、人口密度や距離的な課題があり、他の市域とは事情が異なることを加味し、地域公共交通計画での検討に先立ち、本構想に検討事項として例示してまいります。</p>	原案どおり

10	安全・安心 通学路や歩道の安全安心な利用	東貝塚駅山手の、JRと並行して走る道路は片側1車線（計2車線）ではあるが、歩道が狭く非常に危険です。夜は暗く大人が歩くのも怖いと感じるほどで、帰宅する女子生徒を見かけますが心配になります。東貝塚駅自体は様々な改善が予定されているようだが、周辺の環境整備が先ではないでしょうか。	新たな歩道設置には用地買収を行い歩道拡幅をする必要があります。その為には地元地権者や町会との合意形成を要することから早期設置が困難な状況です。しかし、ご指摘のとおり、通学路や歩道の環境整備は重要と考えており、AIを活用した防犯カメラなどの新技術によりこれらの課題が解決できないか検討してまいります。	原案どおり
11	安全・安心 水道スマートメーターによる一人暮らしの高齢者等の見守り	そもそも全戸スマートメーター化が先です。長期にコストメリットが有ることは議論の余地がありません。そのうえで、みまもりに生かすのであれば一石二鳥です。	ご指摘のとおり、全世帯へスマートメーターを導入した上で、見守りに生かすことが重要であると考えております。一方で、導入費用、工事費、通信費、サーバー代などの固定費が必要となることや、通信エリアの無線環境に関する課題もあると考えております。上記課題に対して実証実験を含む研究をしたうえで、具体的な事業実施といった段階を踏み、進めていく考えです。	原案どおり
12	地域コミュニティ デジタルを活用した子育て世帯の支援	子育て支援の為だけのプラットフォーム構築でなく、汎用性のあるプラットフォームに、「子育て支援」が含まれるべきです。	ご指摘の通りです。子育て支援の為だけのプラットフォーム構築ではなく、汎用性のあるプラットフォームに載せる方向で検討を進めております。まずは、デジタルデバイドの問題が少ない子育て世代を対象とした子育て支援から導入を検討しております。	原案どおり
13		イメージとして提示されていることは、既存のSNS活用で実現可能であるのですぐに実行すればよいと思います。	検討しているサービスの位置づけとしましては、既存SNSより地域内のフラットな場を提供できることから多様性やオープンさを持ち合わせながら、地域関与度の高いものであり、既存のSNSと差別化しております。	原案どおり
14	教育 ドローンを活用した学校教育	ドローンフィールドを活用することが目的で、目的と手段が入れ替わった悪い例です。「貝塚をドローンの街に」というので有れば、小中高にドローン部を作り活動するなりすればよいと思います。	今後様々な分野で活躍が期待できるドローンに児童生徒が触れることで、将来の選択肢の幅を広げていくこと及び、新技術への好奇心を高めることを狙いとしております。また、今まで体験したことのない視点からの映像等を活用した授業を行うことで、より臨場感のある学習につながると考えております。手段としましては、体験学習やサークル（クラブ活動）を本市ならではの施設であるドローンフィールドを活用して実施することを検討しております。	原案どおり

15		<p>ドローン活用は進んではいるものの、建築・点検などの限られた分野で有り、学校教育に取り入れるほどのものではないです。 ドローンの兵器利用が進んでおり悪いイメージをもつ人がいるのも事実です。</p>	<p>今後期待されるドローンの活用方法とし、農業、土木、測量、物流、建築、点検、警備、観光、報道、災害対応、スポーツ、エンターテインメントなど、様々な可能性があると考えており、それらに興味関心をつなげるきっかけとなるものと考えております。</p>	<p>原案どおり</p>
16	<p>教育 デジタルを活用した公民館や図書館での社会教育</p>	<p>デジタルを活用した、リアル・リモートを併用した学習は当たり前となっております。講師も在貝塚である必要がないため選択肢が増えるし、姉妹都市のカルパーシティーとの交流も可能で興味深いものがあります。</p>	<p>ご指摘のとおりと考えております。 早急に導入できるよう整備を進めてまいります。</p>	<p>原案どおり</p>
17		<p>図書館については近隣都市と比べ充実しているとは言えず、図書館・書店の充実は文化レベルの尺度と考えられるので充実してほしいポイントです。 近隣都市との連携で工夫されていることは理解しています。 貸出書籍のデジタル化によりバーチャル図書館化することも検討の余地があります。(衛生面からも) 図書館の運営についても、業務委託によるコスト削減によりサービスの充実が計れると思います。(既に対応済みであれば無視願います)</p>	<p>図書館の運営につきましては、現在泉州地域での相互利用を実施しております。 また、電子図書の導入につきましては、ライセンス数や期間、コストの問題などある為、こちらについても広域での実施を含め研究してまいります。</p>	<p>原案どおり</p>
18		<p>メタバースでバーチャル公民館とか市民側も理解出来なくてデジタルな事に拒否反応の人も少なくないと思うので、まずは、ズームなどを使っての市民講座の参加などからはじめてみるのはいかがでしょうか。 ついでに、貝塚市と姉妹都市のカルパーシティの市民ともズームなどを使って様々なサークル同士で交流すると向上心も上がりそうな気がします。</p>	<p>ご指摘のとおり、市民の皆様が参加しやすい、ZOOMなどを活用し市民講座等を実施してまいります。</p>	<p>原案どおり</p>
19	<p>行政・産業 新技術の実証実験や体験できる機会を創出</p>	<p>イメージしている内容が非常に手ぬるいと思います。 多少のリスクを許容する(住民の意見が二分する)ような議論・取り組みを期待します。 ドローン、MaaS、契約のオンライン化、キャッシュレスなどは実現済みの事例である。</p>	<p>ドローン、MaaS、契約のオンライン化、キャッシュレスなどは、ご指摘のとおり他市等では実現済みの事例ではございますが、本市では未実施である現状等を踏まえ、段階的な取り組みとして実施してまいります。</p>	<p>原案どおり</p>

20		<p>具体例をおもいつかないが、自動運転車両の許容や、各企業のパイロット案件の受入れなど事故リスクがある(非常に小さいが)の受入など、WBSの取材が来るような「新技術の実証実験や体験」を実現頂きたい。</p>	<p>ご指摘のとおり、画期的な新技術の実証実験については魅力的ではございますが、市民の安全・安心を最優先し、慎重に実施計画を検討していきたいと考えております。</p>	<p>原案どおり</p>
21	環境整備	<p>Aデータ連携基盤 異なるシステムを連携させるとあるが、一元化した新しいシステムを構築したほうが安価である可能性があるので検討いただきたい。</p>	<p>各セクションでの複数システムに蓄積されたデータを確実に集約・加工して各システムで利用できるようにするための仕組みでございます。 データを連携することで、暮らしの中での様々な場面がシームレスに繋がることを期待しております。</p>	<p>原案どおり</p>
22		<p>B 共通ID、C マイナンバー連携 共通IDを発行とありますが、マイナンバーが良いのではありませんか。</p>	<p>共通IDとしてどういう物を使用するかは課題であり、マイナンバーを使用することも候補の一つとして検討してまいります。</p>	<p>原案どおり</p>
23		<p>デジタルデバインド デジタル弱者に合わせたデバイスは使い物にならない低機能でカスタマイズ性に劣るものになり、活用されなくなる可能性が大きい。 デジタル弱者に対する対応は相談受付などで事足りるのではないのでしょうか。</p>	<p>デジタル弱者に合わせたデバイスだけを提供するという意味ではなく、デジタル弱者には弱者用、デジタル強者には強者用といったデバイス(もしくはアプリのユーザーインターフェイス)を提供するという考えです。 デジタルデバインドに向けた対応としては、弱者に合わせたデバイス+支援体制の構築の二つの視点で検討を進めてまいります。</p>	<p>原案どおり</p>
24		<p>地域ポイント 無駄である。なぜこの発想が出るかも謎です。 貝塚で発行され、貝塚で消費されるポイントをどれほどの人が渴望するのか。どこで使うのか。 ポイント管理のための費用を回収できる何かがあるとは思えません。</p>	<p>市内商店や公共施設での利用できるポイントです。ボランティアや健康イベント等への参加でポイントが付与される仕組みを検討しております。 また、プレミアム商品券としての役割も検討しております。 地域内で利用することで地域循環・活性化を促進させる仕組みを検討しております。</p>	<p>原案どおり</p>

<p>25</p>	<p>全体</p>	<p>貝塚市澤地区を二色浜駅周辺から二色浜海岸までを千石の杜地区のようにスマートシティかつコンパクトシティ化し、子供からお年寄りまでが安心安全に暮していけるようにしていく、農地の部分やため池や二色浜海岸部の自然や緑を残して人々の憩いの場とし、バーベキュー場や住民が安らげる公園も残してスマート化で便利な地区にしていければいいと思います。また、近隣の二色パークタウンや貝塚駅周辺や和泉橋本駅周辺もスマートシティ化かつコンパクトシティ化し、南海電鉄やコミュニティバスで繋がり連携していければいいのではないかと考えています。また、水間鉄道を中心に水間駅周辺、東山地区周辺をスマートシティ化かつコンパクトシティ化して、南海電鉄、水間鉄道、JR阪和線、コミュニティバスで連携していければいいのではないかと、また、近隣の岸和田市、熊取町、泉佐野市、と広域連携できれば活性化するのではないかと考えています。</p>	<p>本市では現在、将来を見据えた持続可能なまちづくりを推進するため、貝塚市都市計画マスタープランの改訂及び貝塚市立地適正化計画の策定を進めております。都市計画マスタープランとは、将来にわたって暮らしやすいまちを目指すため、まちづくりの将来像を示すとともに、その実現に向けて、将来を見据えた土地利用のあり方や、道路、公園、防災などの整備に関して、今後の基本的な方針を示す計画です。立地適正化計画につきましては、人口減少の本格化や自然災害の頻発・激甚化等に対応すべく、市街地の拡散や災害ハザードエリアへの立地を抑制した上で、都市の限られた資源を効果的・効率的に活用し、エリアを定めた一体的・集中的なまちづくりの方向性を定めております。本市におきましても、人口は既にピークを過ぎて減少傾向にあり、人口減少と少子高齢社会に対する都市計画行政の行動指針として「貝塚市立地適正化計画」を新たに策定するものです。本計画の中で、コンパクトで持続可能なまちづくりを推進するため、公共交通の便利な地域への居住を促す「居住誘導区域」や病院・大型スーパーなどの生活利便施設の建築を促す「都市機能誘導区域」を市街化区域内に設定し、計画的な居住誘導により人口密度の維持を図るとともに、都市機能の集積により生活利便サービスの維持、確保を目指してまいります。高齢化の進行に対応し、高齢の方や障害がある方をはじめ市民の皆様が、自動車を持っていなくてもスムーズに外出できるよう市内の公共交通ネットワークを充実させるため、そのビジョンを示す地域公共交通計画の策定を行ってまいります。</p>	<p>原案どおり</p>
-----------	-----------	--	---	--------------

すでに他のところで実施済みのものが多い。まだやっていなかったのかと言う感じ。

市の全体設計が見えない。対処療法的。素案通りのことは普通にすべきこと。未来の技術と言いながら、お金と技術者がいればすぐにできることばかり。今でもここにいながら国会図書館が閲覧できますから。もっと他のところと違い、チャレンジ&インパクトのあることをしないと人口を増やすことができない。

今世界で問題となっているエネルギー問題、脱炭素なんかはどうでしょう。そんなことは小さな市でできることはないと考えられているのでしょうか。簡単ことでは他のところでもやっている公共交通機関、バスのEV化や水素化をして走らせたりしている。これらは市の規制を緩めたり場所を提供することが出来ればできること。脱炭素は政府も推進しているので補助金等も貰いやすいのでは。

例えば、脱炭素として素案にもある公共交ネットワークに自運転巡回バスの運行なんかはどうでしょう。水間線を背骨として、肋骨のように伸びる自動運転バスの運行。

バスはEV又は水素バス。ICカードを販売し、ICカードをバスに向けてかざせば、バスが止まって乗ることができる。降りる場所も自由。降りるボタンを押せば近くの安全な場所に止まる。買い物や通院、通勤通学にも便利。水間線を中心に住宅地ができ、スーパーなどの商業施設も来て、人口が増える。ただし、自然破壊につながるような乱開発はさせない。

エネルギー問題としては、電気エネルギーの独自の確保。

再生可能エネルギーで市内の電気を賄う。風力発電、小型波力発電、小水力発電等で発電した電力、各家庭での太陽光発電電力、小型風力発電等で発電した電力を独自に地下に配線した電力線で繋ぎみんなで使う。電力網は小さな地区ごとにまとめ、それらを互いにつなぐマイクログリッドを確立。

市に電力局を設け、水道局のようにメンテナンスを行う。電気代は市の電力局のメンテ費用から算出。電力会社よりも安い電気代で提供。電力会社の都合で節電要請や燃料費の高騰による高い電気代とは無関係。

ご指摘のとおり他市等では実現済みの事例ではございますが、本市では未実施である現状等を踏まえ、段階的な取り組みとして実施してまいります。

脱炭素につきましては、温室効果ガス削減の取組みを推進するため、本年度、事務事業部門、市民生活部門、産業及び物流部門に分けて庁内ワーキンググループを設置し、第5期地球温暖化対策実行計画を策定していく予定であり、別部門にて検討を進めてまいります。

原案どおり

地中化により災害に強く、グリッドの一部が壊れても他のグリッドから電力を供給できる。みんな安くて自然に優しいエネルギーで生活している。

電気代が安くて最新の交通網があり、これらの雇用を作り出し、住みやすい街、住みたくなるような街No.1! まずは風力発電機を湾岸地区に数機立てる。世界からも注目され、閑空に来る人達にもここだよってアピール。

市としては規制の緩和、場所の提供、住民への説明・調整をし、補助金を利用して企業を誘致すれば良いのでは？

また、これら新しいことと並行して、もっと公園や緑地化もやって、商店街の再構築、大型スーパーなどの誘致ではなく、市独自の新しい商店街のあり方を作るなどアナログ的なこともやり、真似ばかりでなく貝塚独自のあり方を考えた方がいいのではないかと思います。